

◆団体基本情報

No.	18	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団		
所在地	〒980-0012 仙台市青葉区錦町一丁目3-9						
電話番号	022-225-3934		FAX番号	022-225-4238		所管 部局	文化観光局 文化振興課
団体ホームページ	https://www.sendaiphil.jp/						
代表者職氏名	理事長 増子 次郎			設立年月日	平成4年4月1日		
基本財産等	1,182,475 千円		市の出捐額(割合)	1,000,000 千円 (84.6%)			
設立目的	交響管弦楽の演奏により、音楽文化の振興を図り、芸術文化の向上に寄与することを目的とする。						
事業概要	オーケストラによる演奏事業の実施						
評価対象決算期	令和5年4月1日～令和6年3月31日						

◆人員等の状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①常勤役員数	4 人	4 人	4 人
うち市派遣	1 人	1 人	1 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	55.8 歳	56.0 歳	56.5 歳
③常勤役員平均年間報酬	6,545 千円	6,833 千円	6,863 千円
④職員数	85 人	82 人	84 人
うち市派遣	1 人	1 人	1 人
市退職者	2 人	2 人	2 人
⑤職員平均年齢	49.8 歳	49.4 歳	47.6 歳
⑥職員平均年間給与	5,277 千円	5,368 千円	5,288 千円

◆主要財務データ

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①当期経常増減額	12,714 千円	17,823 千円	△ 41,752 千円
②当期経常外増減額	0 千円	198 千円	374 千円
③当期一般正味財産増減額	12,630 千円	17,938 千円	△ 41,496 千円
④一般正味財産期末残高	78,588 千円	96,526 千円	55,029 千円
⑤指定正味財産期末残高	1,211,057 千円	1,196,014 千円	1,182,475 千円
⑥正味財産期末残高	1,289,644 千円	1,292,540 千円	1,237,504 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①市からの補助金	317,340 千円	316,921 千円	316,780 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	0 千円	220 千円	473 千円
③市に対する収入依存度	37.38 %	35.21 %	36.93 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和5年度事業費
自主事業（自主公演）	楽団の基本事業である定期演奏会9回18公演及び特別演奏会12回13公演	138,314 千円
依頼演奏会	地方自治体、企業及び団体などからの依頼を受けて演奏する事業47日51公演	139,150 千円
室内楽	弦楽四重奏などの小編成で行う依頼演奏会108回	9,472 千円
ジュニアオーケストラ事業	仙台市の音楽文化の一層の振興と発展を図ることを目的とした事業の受託業務	18,640 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	令和5年度は楽団創設50周年記念の演奏会の開催や記念誌の発刊等を実施した。演奏会については、中止等となった公演もあったが、新たな学校巡回公演やオーケストラキャラバン公演を受注したこと等により、当初予算での計画と同数の82公演を開催することができた。また、青少年等への普及・指導等では仙台ジュニアオーケストラの指導にあたりるとともに、4年連続で中止となったオーケストラ鑑賞会の代替公演として、室内楽による学校訪問ミニコンサートを小学校57校で開催するなど、機会提供に力を入れた。今後も、音楽の素晴らしさを届ける活動を継続し、楽都・仙台の推進に貢献していく。	当楽団は、県内唯一のプロオーケストラとして、仙台国際音楽コンクールでホストオーケストラを務めているほか、仙台ジュニアオーケストラの演奏指導や、学校訪問ミニコンサートの開催など、「楽都仙台」を掲げる本市の施策の推進、若い世代への本市の音楽振興施策に大きく寄与している。引き続き、本市の音楽文化の普及・振興の中心的役割を担っていただくことを期待する。
2. 業務・組織管理	平成30年度当初から、総務部・事業部の業務分掌を見直し、営業・広報・演奏事業の連携をさらに強化・充実させた営業推進体制とし、収益向上を目指すための簡素かつ効率的な事業運営体制を構築している。楽団員については、引き続き、定年後の再雇用を行うとともに、楽団員数規模の適正化を中心とした効率的な組織運営を図りながら、楽団の音楽的水準の向上に努力している。	「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づいた楽団員数の適正化、及び事務局の営業推進体制の効率化が着実に進められている。今後も安定的かつ効率的な業務・組織管理に努めていただきたい。
3. 財務状況	令和5年度は、新型コロナウイルスの影響による公演の中止は無かったものの、依頼公演が51公演と、コロナ禍以前の70～80公演の水準に戻りきっておらず、また、雇用調整助成金や大口の寄付も無かったことから、経常増減額は41,752千円の赤字となった。財団の収支は、3年に1度の仙台国際音楽コンクールによる収益をもとに3年間で収支均衡を図ることとしているが、赤字幅が大きく、厳しい経営状況となっている。引き続き楽団の人員体制の適正化による費用の圧縮を中心とした経営改善の取り組みを進め、持続可能な財務基盤の確立を図っていききたい。	令和4年度は寄附金や仙台国際音楽コンクールによる収入が大きかったため経常収支が黒字であったが、令和5年度はこのような収入がない上、国の雇用助成金等がなくなり、赤字となっている。恒常的な収入による黒字転換が求められていることから、企業等からの依頼公演数がコロナ禍前の水準まで回復していない状況も踏まえ、引き続き楽団員数の適正化、依頼公演や国補助金、民間助成金等の獲得に努め、収入増に向けた取り組みを行っていただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	財団・楽団が、仙台市の貴重な文化的資源として今後も存続していくためには、持続可能な財務基盤の確立が欠かせない。そのため「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づく各種の取り組みを着実に進める必要がある。とりわけ、法人サポート会員（賛助会員）の増加や、R6から新たな公演シリーズを実施するなど有料入場者率の向上に力を入れるとともに、各地の自治体、教育委員会、ホール等に対して新たな演奏会の企画・提案を行うことや、企業・団体からの協賛等の協力を依頼しながら継続性のある公演の確保を図っていくほか、楽団員数規模の適正化など効率的な組織体制を目指す必要がある。引き続き、顧客サービスの向上により楽団への継続的支援を呼びかけるとともに、新規顧客の開拓のため、SNSや動画配信など、広報の充実にも取り組んでいきたい。	当楽団は、音楽ホールを含む（仮称）国際センター駅北地区複合施設の計画において、当該施設のレジデントオーケストラに位置づけることとしており、将来を見据え、引き続き、本市の音楽振興施策との連携を図っていただくとともに、市民の多様なニーズに対応した魅力ある取り組みにより多くの顧客獲得に努めていただきたい。また、「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づき、経営改善を着実に進め、安定的な組織運営・財務基盤の確立を図っていただきたい。